

## 討論メモ

### 「石破新政権と米大統領選挙」

令和 6年 11月 19日

1. 今秋は、石破政権の誕生、米国大統領選挙という大きな政治上の出来事がありました。

特にトランプ氏の再選の結果（選挙人獲得数、総得票数、接戦七州全勝のトランプの圧勝、また、上院、下院、州知事選挙とも共和党が多数を占めた完全勝利）、どんな変化が予想されるのか、日本にはどんな影響があるのか、どう対応すべきなのか、などを中心に議論しました。

2. 出席者 7名による自由な討論に入り、下記のような意見が出されました。

- ・トランプの圧勝、民主党の惨敗は十分に予測できたが、日本のメディアは、“史上まれにみる接戦“などとの的外れな予想に終始していた。反省もないようで困る。

- ・今回の結果はグローバリズムの弊害である格差の拡大の影響が大きかったのではないか。

- ・民主党の人材不足は酷いようだ。二大政党制の危機と言える。

- ・トランプ勝利でウクライナ戦争の終結を期待する。

- ・安倍さんはトランプと馬が合ったが、石破は合いそうもなくて心配だ。

- ・トランプ再選は日本にとっても影響は大きそうだが、とりあえず関税アップ、特にメキシコに 200% 掛けられると日本の自動車産業などにも影響は大きい。

- ・不法移民の送還と言っているが、実際どのようにやるつもりなのか？簡単ではなさそうだ。

- ・移民は 3K など人の嫌がる分野や、賃金の安い分野で必要な労働力ではないか。

- ・欧米の例を見ても、農業分野も移民が役立っている。

・ロボットの活用など工夫次第で、移民に頼らなくても、克服できるのではないか、AIの時代には人が余るともいわれている。

・欧州では移民が深刻な問題を引き起こしている。移民に反対する政党が各国で躍進している。

・ドイツでは移民に反対する政党の AFD に対する締め付けが厳しくなっている。

・日本でも川口市のクルド人集中地区では治外法権のような状態と言われている。

・クルドはマフィアのような組織を持っていて、ドイツでも問題になっている。

・欧米先進国では移民が喫緊の大課題になっているのに、日本では川口の状況もほとんど報道されないし、移民受け入れ政策を続けている。国際情勢から学ぶべきだ。

・トランプは米国第一主義、各国第一主義をうたっている。日本は米国の圧力から脱して真の独立をするチャンスだ。

・自ら努力して、日本復活を目指すべきだ。

・戦後 80 年、米軍に占領され続けていても、変だとも、悔しいとも思わない民族にされてしまっている。正しい歴史、文化を教育して日本を取り戻す必要がある。

・安保条約を調べてみると、大量の付属文書がある。地位協定などが細かく規定され、これらの付属文書は不変のままである。

・岸田内閣はウクライナに 1 兆何千億円も援助しながら奥能登災害にはまことに冷淡だ。地方再生がなければ日本の復活はあり得ない。

・祭りや伝統行事の復活など、地方の努力も見え始めている。

・今治などはサッカーが起点になって移住者が増え、人口増に転じている例も出て来ている。

・サンマやイワシなど日本近海の魚が不漁だし、不味くなっている。

・トランプにはウクライナと中東の戦争の早期終結を期待したい。

・NHK には知恵を出して、国民のためになる報道をしてもらいたい。

・兵庫県知事の再選にはびっくりした。

・斎藤知事は県の実情をよく把握しているし、地域ごとの政策を進めている。

・利権に喰いこんだので、議員の反発を呼んだらしいが、新聞、TV の報道は間違っていたのではないか。県民の判断が正しかった。

・SNS が大手マスコミを倒した選挙と言える。

以上

